

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022 年 9 月 25 日
- 事業名 : 知的障がいのある子どもへの性暴力防止事業
- 資金分配団体 : 一般財団法人大阪府人権協会
- 実行団体 : 特定非営利活動法人キャップセンター・ジャパン

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
つながりづくり 当事者以外を含む予防に 取り組むネットワークが 構築される。	ネットワークの 構築	ネットワーク ができる。	—	<ul style="list-style-type: none"> ●性暴力防止連続セミナー（ゼロベース+5回）を5月に終え、8月にセミナー同窓会を実施した。6人が参加し、その後の実践や悩みについて意見交流を行ったところ、それぞれの場所で、自分と同じように考えたり、出来ることを実行されているのがわかり、心強く感じたとの感想が寄せられ、同窓会アンケートではセミナーで学んだことによる変化（見え方・考え方を含む）は100%であった。今後学びたいこととして、境界線を育むサークルズプログラムが最も多く上げられていた。 ●第2クール性の暴力防止連続セミナー（ゼロ+5回）を10月より実施予定。現在、11人（うちお一人は、前回参加者からの紹介とのこと）の申し込みを受けている。第2クールセミナー広報に際し、活動目的を同じくする団体との連携・協力が図れている。 	2

日常において知的障がいのある子どもの心とからだの境界線を育む知識とスキルを持つおとなが増える。	知識とスキルをもって日常生活に活かすおとなの増加	150人以上	2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ●2021年度性暴力防止連続セミナーは計20人が参加した（ゼロベースのみ参加：2人、全回参加／ゼロベース+5回：18人）。受講者は、回を重ねるうちに共通認識を持っていること、“ここは安心な場なんだ”ということを実感されたのか、グループセッションでは、それぞれが出会った子どもや個別のケースに関する話も出てくるようになった。そのため、守秘などを含む、講座のグランドルールを毎回確認するようにして安全の確保に務めた。 ●サークルズのLevel.1とLevel.2の翻訳のうち、Level.1の監修作業を行い、並行してカリキュラムづくりの意見交換を行っている。この内容を2022年度性暴力防止連続セミナーでも紹介していく。知ってもらうためのプレゼンテーション資料等とおとな（支援者）を対象とする基礎段階のサークルズプログラムカリキュラムは2022年中に作成し、作業所などのスタッフに対して試行実施。（オンライン及び対面） 	2
知的障がいのある子どもが心とからだの境界線について日常で学び、実感する機会が増える。		90人以上	2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者、先生対象サークルズカリキュラムを作成・試行実施後、2023年度中の本格実施をめざす。 ●子ども対象はまず15～18歳（特別支援学校高等部に該当）からカリキュラムを作成し、教材を整え、試行実施する。 	2
知的障がいのある子どもの心とからだの境界線を育むプログラム提供のできる実践者が養成される	境界線のプログラムを提供できる実践者の増加	36人	2023年度 下半期	<ul style="list-style-type: none"> ●実践者養成講座のためのテキストの作成（2023年度上半期） ●CAPプログラム実践者を対象に、子どもの心とからだの境界線を育むサークルズプログラム養成講座を実施する。 ●CAPプログラム実践者には機関誌（計3回発行）を通じて、本事業の内容を報告し、知的・発達障がいのある子どもへの性暴力について共通認識を持ち、今後の境界線を育むプログラム提供に対する意欲を高める情報提供を行った。（対象者：272人） 	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
現状、事業のすべてのやりとりはオンラインを通して、非対面で行っている。また、事業実施においてもオンライン（非対面）実施でコロナ感染の状況に左右されずに開催できるようにしている。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

2.広報制作物等

○『CAP NEWS』No.40（2021年10月）No.41（2022年3月）発行。各1500部

○Webサイトでの紹介「知的障がいのある子どもへの性暴力防止事業（2021年度～2023年度）－暗くなる理由をなくしていく－
リンク先 <http://cap-j.net/archives/6866>

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価計画の見直し 事業の評価	長谷 有美子	CAP センター・JAPAN・事務局
内部	評価計画の見直し 事業の評価	重松 和枝	CAP センター・JAPAN・事務局
内部	事業の評価		CAP スペシャリスト 5 人（性暴力防止セミナー担当者）
外部	評価計画の見直し	松村 幸裕子	共奏学舎 主宰

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
性暴力防止セミナー受講者 (短期 OC4)	これまで参加した人たちが集まり、情報交換をする回数や参加者数	5 回 20 人	2023 年度	2022 年度 8 月に 1 回実施、6 人が参加（終了時にすべての参加者が案内が欲しいとのことで、全回参加の 18 人を対象に呼びかけ／8 人から返信）。受講者は、回を重ねるうちに共通認識を持ち、グループセッションでは、それぞれが出会った子どもや個別の話も出てくることで、仲間意識を持ち、孤立感を減らすだけでなく、今後にもけて力づけられている様子が伺えた。

	ネットワークに参加している と思ひ浮かべられる社会 資源の数	3	2023 年度	連続セミナーの 2 クール目からは参加者への事前アンケートから意識して変化を見られるようにしている。
障がいのある子どもに関わる支援者 (短期 OC1)	プログラム受講者が、孤立 を防ぐことが性暴力防止の ために重要と認識してとる 行動	ループリック (5 段階) で変化 を確認する。 5* 当事者の安心を軸にして、 子どもや家族の孤立感をなく すことを常に心掛けてアプロ ーチしている。	2023 年度	性暴力被害、性加害行動の疑いを抱いた際の具体的な行動の選択肢をセミナーを通じて学んだことで、子どもの行動や事象現象の見方・捉え方・考え方が変化したことまでは、1 クール目のセミナーを終えて、アンケート等から把握している。2 クール目からは参加者への事前アンケートから意識して変化を見られるようにしている。
	子ども・家族・支援者は困っ たときに誰かに相談しよう と思える	ループリック (5 段階) で変化 を確認する。 5* モヤモヤした感覚の段階 から話そうとする。	2023 年度	2 クール目となる 2022 年度の連続セミナー参加者の動機には、困っている状態があるなかで当法人 HP や SNS の情報にたどり着き、子どもや家族の力になりたいという支援者の切実な思いが書かれている。オンラインということで他県からの参加も多く、身近にはなかなか相談できない、あるいは情報を得られない状態があると推察される。セミナー参加による変化をアンケート等で把握していく。

性暴力防止セミナー受講者、サークルズ実践者養成講座受講者、サークルズプログラム参加者 (短期 OC2)	支援者が、障がいのある子どもを権利主体として認識していることで、子どもの心とからだの境界線を侵害せず、自己決定への支援も行われることで、子どもは自分を大切な存在と実感し、支援者をモデルとして出会う人との安心な関係の取り方にチャレンジする。 支援者の自己意識の変化「子どもが権利行使の主体であること」	ループリック (5段階) で変化を確認する。 5*常に子どもに関することは子どもの同意を得ている。	2023年度	性暴力防止セミナーでは、毎回、繰り返し「障がいのある子どもが権利行使の主体」というフレーズを伝えた。次第にグループワークやアンケートに同じフレーズが使われるようになり、共通言語から共通認識に変化していったと感じている。支援者の行動の変化はこれからだろうが、境界線を侵害せず安心な関係のモデルとなる土台づくりは行えたものと捉えている。 他の対象者は未実施。
		① 子どもの変化 ・(子どもの発言発言「自分は大切な存在」「私には自分のことを自分で決める権利がある」 ・サークルズで学んだ境界線について守れていること		未実施
サークルズプログラム参加者 (おとな・子ども) (短期 OC3)	プログラムに参加する	おとな 250 人 子ども 90 人	2023年度	未実施
市民や企業 (短期 OC3)	Web サイト閲覧数およびアンケート回答	ループリック (5段階) で関心度を確認。 5*サークルズについて職場で研修を行いたい。	2023年度	未実施
企業体 (短期 OC3)	予防的観点から研修を行う企業	10 企業	2023年度	未実施



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>予防的観点から性暴力に対応しようとする社会資源によるゆるやかなネットワークができ、当事者支援者がエンパワーされる。</p>	<p>性暴力防止連続セミナー後の同窓会開催(2022年8月)に6人が参加</p>	<p>18人全員が同窓会企画の案内を求められたことから、学び続ける場や共通認識を持って語り合える場に対するニーズがあることが窺えた。また、同窓会参加者の終了後アンケートには、「参加者それぞれの活動を知り、悩みを知り、助言をもらい、子ども達を守りたいと思っている仲間がいるんだと実感した」「セミナーの中では聴けなかったそれぞれのバックグラウンドや、思いを聴くことが出来てよかった。それぞれの場所で、自分と同じように考えたり、出来ることを実行されているのがわかり、心強く感じた」「地域が違うからと繋がれなかった人たちと繋がることが出来るのは大きな財産だと思う」「仲間が全国にできたこと、近隣の仲間とも知り合えてとても良かった。まだまだ知らないことが多く学ぶことの必要性を痛感している。また、みなさんに会いたい」といった声が寄せられ、「仲間」という存在や語り合える場がエンパワーにつながることを改めて学んだ。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>当初事業計画と境界線を育むということに対する現状の認識が甘かった。知的・発達障がいのある子どもたちの特性に沿って境界線を育むサークルズプログラムを子どもにとって使える道具にしていくには、おとなの理解と日常で子どもと共にプラクティスを重ねる姿勢が重要であることを連続セミナーでも痛感した。まずおとな対象(支援者・保護者・教職員)のカリキュラムの作成・試行からスタートすることが必要と、監修作業を進めるなかでプロジェクトメンバーの一致した見解である。状況・構造の変化に必要な具体的かつ一貫性、継続性のある取り組みにつなぐために、スピード感を持ちつつ、丁寧にカリキュラムを作成していく。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業設計に基づいたセミナー企画ができたか ② 翻訳作業/監修作業は予定通りに進めたか 	<ul style="list-style-type: none"> ① できた。 ② 外部へ依頼した翻訳についてはほぼ予定通りだったが、その後遅れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① セミナーの目的・目標を定め、講座の骨組みをつくり、広報を開始。当日のセミナー内容については、担当者が構成案1を提案し、プロジェクト会議やメールなどで意見交換⇒構成案2⇒意見交換・パワーポイント案1作成⇒原稿案1⇒意見交換・パワーポイント案2⇒原稿案2⇒事前資料送付⇒当日⇒振り返りという流れがルーティンとした。 ② テキストの最終内容を、養成講座やカリキュラムを実施していくにあたり、実践者がサークルズプログラムのめざしていることを理解しやすい言葉遣いやイメージを共有できるようになること、さらに知的・発達障がいのある子どもに伝える際の具体的な言葉かけを含め、検討するのに時間がかかっている。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	<ul style="list-style-type: none"> ① 連続セミナーで実施した内容をセミナー以外の場でどう活かしたか ② 信頼性のあるデータ/情報を使っているか ③ セミナーの内容のブラッシュアップ/改善 	<ul style="list-style-type: none"> ① 団体の通信（内部・一般対象）で情報を共有している。 ② セミナーの実施については、論文・書籍等根拠のあるデータを使っている。 ③ セミナーの内容は毎回振り返りかえり、今後に向けて検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 団体の通信（内部・一般対象）で、事業の進捗を報告し、より多くの方にこの課題を共有していただけるようにと努めた。 ②論文・書籍は常にアンテナをはり、活動の理念に相応したものをスタッフで共有し、意見交換をして自分たちの言葉で話せるところまで落とし込んだ。 ③連続セミナーでは、セミナーの最後のグループセッションでの参加者の感想と受講者のアンケートをもとに振り返りを行い、ブラッシュアップしていけるよう、次回のセミナーに備えた。
組織基盤強化・環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクトに関わる人材の育成 ② プロジェクトに関わる人の情報共有の円滑化 	<p>2022 年度にはプロジェクトに関わるメンバーが増えた（交代）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 2021 年度の連続セミナーの受講者とグループファシリテーターを担った人、これまでサークルズを実践してきた人が新プロジェクトメンバーとして関わることになった。（いずれも CAP スペシャリスト） ② 昨年からのメンバーとも対等な関わりが持てるように、運営ルールの確認やチームビルディングのための時間を大切にしている。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・性暴力連続セミナーのプロジェクトメンバーは、セミナー実施にあたり、つねに目的・目標に照らし合わせ、受講者の変化をグループセッションや終了後アンケートから汲み取るよう意識し続け、事業を行ってきた。
- ・7月に、大阪府人権協会が主催する「中間評価に向けた研修会」を受講以降、事務局内では、何度も TOC の修正および指標の作成を行ってきた。途中、専門家によるフィードバックを対面で2回受け、メールでも確認作業を進めた結果、今回の事業でめざすこと（成果）がより精査され、今後の事業展開に必要なことが明確になった。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・事前評価の時期は、よくわからないままとにかく書くということに必死で、評価の考え方に折に触れることで、見返してみるとポイントがずれていたり、まとめられていなかったことが今回の中間評価でよくわかった。今回の作業を通して、再構築できたことは大きな成果と感じている。
- ・中間評価までのある程度の実践が、今回の評価において、評価するために必要な準備があり、それらに基づいてアンケートの作成や実践者との共通認識を持って臨むことが重要だと再認識できた。
- ・外部の方にアドバイスをいただくことで、「評価する」ということが何のためなのかが腑に落として、今後、他の事業にも波及させていきたいという意欲を持つことができた。
- ・書類に落とし込んで、日々の他の業務に追われるなかでは、本事業の中・長期アウトカムを含めた事業全体の目的・目標を思い描きながら進めることは難しいと感じていたが、今回の作業のなかで事務所の壁に Toc を大きくして貼り出し、いつでも見られるようにして、事業の進捗に応じて変更等についても検討できるようにした。見える化が意識にも影響を及ぼすことを実感している。
- ・今回の助成事業をやっている他団体の方と別事業で一緒した際に、成果をどこに置くかという話し合いにおいて「大阪府人権協会ですらやったあれやんね」という言葉が出てきて、共通認識に基づいて事業計画を立てることができた。考え方の基盤を共有しておくことが事業の目的だけでなく、目標・成果を位置づけて推進する力になることを実感した。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>サークルズプログラムの監修作業を通して、プロジェクト内の意識を揃え、社会構造を変えていくための戦略を再検討したところ、まずは丁寧なおとなの意識、行動変容を行う段階を経たうえで、障がいのある子どもを対象とした取り組みを本格化させていくことが重要と確認できた。そのため、2022年度はおとなへの周知・啓発、基礎段階のカリキュラム作成やテキスト（実践ガイド）の作成を行いつつ、2023年度から子ども（15歳～18歳：特別支援学校の高等部に該当）にプログラムを提供するための準備（教材作成を含む）を進めていく。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

プロジェクト内での共通言語・共通認識を持つ作業を丁寧に行いながら、プロジェクトの外の人へどう伝えるのか、その先に知的・発達障がいのある子どもがいることをイメージしながら、実践ガイドの言葉や見える化を図っていくことに早急に取り組んでいく。

添付資料：性暴力防止連続セミナー第5回資料 0522（予防観点でできること）

活動の写真：

1. 事前調査アンケートの公開（HP）
2. 会議の一コマ（資料を共有）
3. 仮訳から監訳、そして監修へ

以上